

クラブチーム

2023. 3. 28

次年度、令和5年度から中学校の運動部の大会である中体連大会に、地域のクラブチームも参加できるようになる。だが、まだまだ限定的なものである。団体種目は、県大会から1チームのみの参加となる。個人種目は地区大会からとなる。こちらも出場枠がある。なおかつ、クラブチームは3月22日（水）までに中体連への登録を済ませておかなければならない。

各クラブチームには、何がどうなるのかといった情報は、公平に届いているのだろうか。教え子が、ソフトテニスのクラブチームの指導に携わっている。自分もプレーヤーだが、二人のお子さんがクラブチームで活動している。

何度か私のところに連絡がきた。よくわからないからである。何が正しいのかがわからないからである。人の話というのはむずかしい。「来年からこうなるらしいよ」が、いつの間にか「来年からこうなる」に変わる。誰か一人が言った発言がひとり歩きをしていく。

ライバルであるクラブチームの情報が入る。「ではうちも」となりがちである。教え子には、こう伝えた。あなたがやることは、正しい情報を仕入れることと、練習場所を確保すること。人の話に振り回されないことである。

とはいっても、クラブチームの関係者は焦るだろう。時間がないのも確かである。学校側から見れば、次年度はそう大きな変化はないという理解でいいかもしれない。しかし、クラブチームから見れば、大きな変化である。この変化は、今後どんどん拡大していく。当事者意識をもつのは当然である。

学校もクラブチームも大事なことは、子どもたち、中学生にとってどうなのかという視点で考えていくことである。子どもたちにとって、何がベストなのか。どうすることが最善の道なのかを検討することである。子どもたちが、学校とクラブチームの板挟みになるようなことがあってはならない。

クラブチームで活動している子どもたちは、クラブの指導者とも学校の部活動の顧問とも話し合わなくてはならないだろう。次年度が移行期元年となる。移行期というのは、様々な問題を抱えながらも、それらを解決しつつ前へ前へと進んでいく期間である。一つだけ明らかになっていることがある。それは、後には戻らないということである。

我が家の二人の子どもたちもクラブチームで活動した経験がある。ということは、我が家はクラブチームの保護者であった経験があるということである。少しは、保護者の皆さんの心情を推し量ることができると思っている。後には戻らない以上、文句を言っても始まらない。前向きに考えるべきである。クラブチームの事情はあろうが、チャンスが広がったと捉えるべきなのであろう。